



日銀所長の

あさひかわ  
つれつれ日誌  
15

常磐公園界隈は、お気に入りの散歩コースです。買物公園から七条緑道を経て常磐公園に行き、上川神社願宮や美術館前などをぶらぶら散策し、それから石狩川の堤防に登って、旭橋や天気のいい日は大雪山の眺望を楽しみます。公園内は彫刻が多く、買物公園や七条緑道の彫刻群と一体

### よそものの目線で評価する



冬の常磐公園。雪に覆われた小川、カモ、青空。小説「赤毛のアン」に出てくる美しい島、プリンス・エドワード島を思い出す

となつて芸術の街の雰囲気を出しています。さすが「日本の都市公園百選」に選ばれただけのことはあります。

ところが、常磐公園を大したことがないと思つている人が、地元では意外と多いようです。ある会場で「常磐公園はいいですね」と言ううと、「そうかい？ 転勤族の人は何故か大体みんなそ

ういうね。タクシーの中で同じことを言うと、「常磐公園は何もない。もう千数年行ったことがない」という反応でした。

そこで、ちょっと実験してみました。買物公園や常磐公園の写真をインターネットのサイトに載せたのです。あるサイトでは、すぐにアジアの人たちから、「いいね！」「雪が好き」と

いった反応が返ってきました。一方、旭川の知り合いの人が大勢参加しているサイトでは、「百選ですか？ しつくりこないですね」「百選？ 知らなかった」といったコメントをいただいたのは、正直予想外でした。

このように、よそものから見ると憧れの的なのに、過小評価されたままになっているものが、他にもまだまだたくさんあるような気がしています。これは大変もつたないことだと思いたいです。なぜなら、他の地域の人たちの目線に立って自分たちの強み・弱みを評価することができれば、交易によって自分たちの強みを一

層生かす方法が見つかり、旭川の地域活性化に役立てることができるからです。異なる地域間でそれぞれ比較優位のあるものを交易することでお互いメリットが得られ、また交易が盛んになればなるほど経済が活性化することは、経済学のもっとも基本的な原則の一つです。こう言うと、「旭川は輸出がほとんどなく、交易なんか関係ない」と思われる方がいらつしやるかも知れません。しかし、おい

荒木光二郎(あらかきこうじろう) 一九六〇年(昭和三十三年)愛媛県生まれ。八三年(同五十八年)日本銀行に入行。米國イェール大学留学。日本格付投資情報センター出向、調査統計局企画役などを経て、一〇年(平成二十二年)から旭川事務所長。趣味は旅行、写真、音楽鑑賞、翻訳。

日本銀行旭川事務所長  
(毎月第4週に掲載します)